

(様式1)

自己評価票

作成日 平成 年 月 日

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	0870101631		
法人名	社会福祉法人翠清福社会		
事業所名	グループホームかたくり	ユニット名	東ユニット
所在地	311-4153 水戸市河和田町4516-1		
自己評価作成日	平成22年11月 26日	評価結果 市町村受理日	平成 年 月 日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報	茨城県福祉サービス振興会のホームページ「介護サービス情報検索」から情報が得られます。
------	--

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	社会福祉法人茨城県社会福祉協議会		
所在地	〒310-8586 水戸市千波町1918番地 茨城県総合福祉会館内		
訪問調査日	平成 年 月 日	評価確定日	平成 年 月 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

今年度グループホームが一番に力を入れてきたことは、「毎日の生活を大切にし、安全に安心した生活を営むことが出来る」である。そのために多くの学習会や、訓練を行ってきた。また毎日の生活を大切にする為に本人の意思決定の大切さ、どのようにして気持ちを汲み取り、それをケアプランに反映していくかの話し合いも充実してきました。また運営推進会議も地域や家族の協力の元開催でき、地域の方との交流や家族会も継続して行えています。また今年度は徐々にボランティアの活用にも力をいれていきました。

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

--

自己評価	外部評価	項目	自己評価
			実施状況
I 理念に基づく運営			
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎年法人の理念を基に、事業所の理念方針を作成している。作成にあたっては地域密着型事業所の役割を認識し、前年度の総括を基に職員全員で作り上げている。具体的なケアに関しては、毎月の職場会議、ケアプラン会議のなかで話し合い意識の統一を図っている。
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	日常的な散歩や近所への買い物の時には、畑仕事をされている方への挨拶や会話など積極的に行なっている。家族会の時に地域の方が珍しい食材で天ぷらを作ってください一緒に参加して下さった。定期的にクリーン作戦を行い地域の方との交流を図っている。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議の中で、GHの状況や利用者への職員の関わりなど報告をしている。職員へは認知症実践者研修を積極的に受講させ専門性を高めている。また実習生の受け入れに関しても利用者の社会性を高めるためにも積極的に受け入れている。
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、家族代表、民生委員、行政、有識者、職員で構成され定期的に開催している。会議の中では外部評価、情報公表の目的や結果報告を行いい課題などに関して積極的な話し合いを行っている。運営会議の報告書は広報紙により家族へ配布し、玄関にも閲覧できるように設置している
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議においては、毎回参加して頂き状況や課題に関して報告、助言を頂いている。様々な利用者様の背景の中で、事業所のみで解決できないことなど相談している。
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員は年間研修の中で、権利擁護、法令遵守に関する学習会を受講している。新人研修の中にも「身体拘束のてびき」の熟読やレポート提出などを行っている。職員へは体験研修を実施し自ら拘束を体験してもらい人権に関して考える機会を設けている。家族に関しては契約の時の説明を始め、日々の変化の状況を細かく報告し拘束をせずに対応させて頂けるように理解を求めている。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	年間学習会の中で虐待防止の内容で全職員が受講している。また毎月の職場会議の中でも事例検討やケースカンファレンスを行い、処遇に関する振り返りを行っている。「自分の気づかない事が虐待につながっていることもある」ということを常に考える意識を持てるよう学習を強化している。

自己評価	外部評価	項目	自己評価
			実施状況
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるように支援している	職員は学習会の年間計画の中で学習している。管理者は権利容疑推進員の研修の担当者となっている為に自己研鑽している。また相談内容により成年後見制度などが必要と判断した場合は関係事業所や法人施設の相談と連携を取りながら進めている。成年後見制度の研修に参加している。
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約に関しては、管理者と職場責任者の複数で対応している。今年度の方針も含め、家族の不安を軽減するために、実際の生活の細かいことに関しても職場責任者より具体的に説明を行っている。入所が長期化することにより、財政的な状況が変化することもありその都度家族との話し合いも行っている。
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関へ目安箱を設置している。定期的に入所者懇談会を実施し、利用者からの意見をもとにレクや外出、献立に反映させている。また要望に関しては職場会議にて実現するための策を検討している。また家族・入所者に満足度アンケートも同様に実施している。家族会や食事会など家族が実際来所出来る機会を多く持ち話しやすい雰囲気を作っている。
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に一度の運営会議・職場会議・ケアプラン会議には管理者・職場責任者・が一緒に参加し会議を開催している。また職員面談を年に3回～4回全職員に対し実施し意見交換を行っている。また総括や方針作りも職員全員で行っている。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員面談を実施し本人の望みや方向性に関して把握している。また職員の資格取得に関しては研修や受験日など職場全体でバックアップを行っている。取得後の本人の希望などに関しては職員面談時に確認している。
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	事業所全員参加の学習会が年間計画に則り実施されている。資格取得に関しても積極的に行っている。また認知症実践者研修・リーダー研修にも積極的に参加している。だいが研修に関しても年間計画の基、職員のレベルに合わせた研修を行っている。研修報告会は各ユニット会議の中で行っている。
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	GH協議会の学習会には積極的に参加している。また実践者研修などで一緒になった他のGHの職員と交流を行い各自の悩みや課題の解決などに関して情報の交流を行っている。近隣のGHの職員と一カ月に一回交流会を行い、現在は学習会の内容に関して一緒に検討学習している。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	
			実施状況	
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	相談時の対応は一人ではなく管理者・職責と複数で対応し、「みんなで考えて行きましょう」というスタンスを取っている。また本人の状況を知るためにも出来る限り入所前に複数回お会いすることができるように対応している。	
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	相談時の家族の気持ちや状況をしっかり聞き・今何に困っていらっしゃるのか、何が心配なのか聞くことができるように心がけている。相談を受ける職員の相談援助技術に関してもカンファレンスなどを通してスキルアップに努めている	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時今何が必要なのか、見極め他事業所との連携を行いながら徐々にGHになじんで頂くなどの工夫を行っている。今までの環境をすぐに切り離す事がない様に行っている。	
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	毎日の生活の中で（食事作りやおやつ作り・畑仕事など）多くの事を教えてもらう機会が多い。また季節ごとの行事を通してその地域の風習などに関しても、企画の段階で関わって頂き一緒に行う事が多くなるように心がけている。また懇談会などを通して、一緒に意見交換が出来ている。	
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人の状況を変化があるごとに家族へ伝えていく。またひと月に一回一言箋をご家族に郵送している。ケアプランの説明の時には出来る事、出来なくなったことなど生活の中の状況に合わせて説明を行っている。外出・行事・家族会など家族に積極的に関わって頂けるように工夫している。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家にいた時に行っていたコンサートに行ってみたり、クリーニング屋さんにご褒めしている方に関しては継続して使ったり、食堂についても行きつけの所に月に一回は言ってみたいとの希望がありプランに入れて対応しているなど、その人その人のこだわりを大切にしていける工夫を行っている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	毎日の食事やお茶の時には職員も一緒に参加させていただいている。このことによって入所者間の橋渡しになっている。またそれぞれの性格があり価値観も異なりトラブルになる事もあるが、その空間設定や雰囲気作り、いつ職員が関入して行くかなど、職員間の情報共有の中で連携を取っている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価
			実施状況
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービスが終了された方への、施設行事等の案内を出したり、家族に年賀状など季節の挨拶を出したりしている。いつでも関係が続いていることを表明している。移動先に関してはセンター方式をお渡し、またケアプランなども継続して頂けるように情報提供している。
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント			
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	本人の希望や思いに関しては、入所者懇談会やアンケート、日々の関わりの中で把握していくが、意思表示が出来ない方に関しては、今までの生活の振り返りや、センター方式で以前の生活をどのようにしていたかなどカンファレンスの中で検討している。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前にセンター方式で情報を収集している。しかしその中に出てこなかった部分の家族へ今の状況などを伝える事で、また新たな情報を知ることが出来る。家族へも細かなことでも伝える努力をしている。家族も本人へ興味を持ってもらい、一緒に暮らしを支える事が出来る。
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一日の日課は本人の生活パターンに合わせて行っている。毎日の記録の中に本人の状況を詳しく記載していく。また3か月に一回の担当者によるアセスメントやケアプラン会議によって状況の把握に努めている。
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人の生活していく中での困りごとから、どのような生活をしていきたいのか導き出し、プラン作成を行っている。プランに関してはケアプラン会議を経て家族本人の意見も反映し、多くの意見を聴きながらケアマネがまとめている。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	記録はケアプランに沿っての内容と日々の状況職員の気づきなど多くの事が記載されるように努めている。書式に関してはカードックスを使用し、記録するところにケアプランがすぐに目に出来るように工夫している。記録内容に関しては定期的に記録に関する学習会を実施している。
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	多くの事業所を持つ敷地内でGHを運営している為に、緊急な外出や受診など臨機応変に対応することができる。個々の希望は日々変化し思いがけない要望が出たりするが、今その人に対してそのことに、向き合う必要を感じた場合は対応している。多くの他職種や他事業所の協力体制を組んで行っている。

自己評価	外部評価	項目	自己評価
			実施状況
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の方の協力により、こんにやく作りや梨狩りなど、昔行っていたことを体験させていただくことができる。外出時はボランティアの協力が得られ希望をかなえる事が出来る。また、地域の方に顔を覚えて頂き散歩の時にはいつも声かけして頂けるようになった。
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医はご家族と本人の希望する病院となっている。受診に関してはご家族へ対応して頂き、状況に応じて施設での対応を行っている。また専門医の受診が必要となった場合には家族と相談し対応している。訪問診療で対応している方もいる。
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	状況の変化には、報告を受けて同敷地内にある老健や通所系の事業所に看護師がおり連携を取って対応している。また同敷地内に医師も常駐しており、状況報告をこまめに行い対応している。また受診が必要な場合にはかかりつけ医の看護師とも情報を取りあい関係作りを行っている。
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	認知症の方にとって、環境の変化と身体的苦痛は大きな影響をもたらす。極力入院しないで済むように、少しの変化も見逃さず早いうちの受診に心がけていく。また最悪入院が必要になった場合は、本人の安心のために、顔なじみの職員の面会を行ったり、情報を細かく使える事としている。(情報としてセンター方式を持参していく)
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化してからの対応では、家族も混乱をする可能性がある為に、状況報告する時などに徐々に話をして行くように努めている。施設状況や家族の希望などによりどのように対応するかは話し合いの基行っている。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	全職員が年に一回の救急蘇生の研修に参加している。またGH協議会が行う研修にも参加した。同敷地内に24時間看護師は滞在する為に緊急時の対応マニュアルは出来ている。
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署の協力を得てGH単独の消防訓練や夜間想定消防訓練を行っている。また老健合同の消防訓練も行っている。訓練による課題に関しては、各ユニットで職場会議で話し合い個別の避難誘導訓練を実施している。」

自己評価	外部評価	項目	自己評価
			実施状況
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員の研修の中にも、基本介助の中でプライバシーの保護の学習は行っている。また法令遵守の中で個人情報の守秘義務に関しても行っている。日常介護の中で、本人の意思の尊重は毎回のケアカンファレンスの中で意識付けを行っている。狭い居住空間のなかで、排泄の声かけや個人情報の内容に関しては十分な配慮を行なうことを徹底していった。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中で献立と一緒に作ったり、レクの内容と一緒に決めたり意思決定の出来る人に関しては確実にしている。意思表示の出来ない利用者に関しては、日々の関わりの中でその人のサインに気づくことが出来るように感性を高める努力を行っている。「なぜ・なぜ」と考える事の出来る介護者になれるように努めている。意思決定のできる方が多いユニットなので、ケアプランの会議などで十分に本人の希望を奈度を話し合っている。
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	大まかな日常の流れはあるが、今日一日誰がどのような一日を過ごすことを希望されているのか、朝の申し送りや援助内容の打ち合わせを行っている。その日の入所者の状況の変化によって、日程は変わることはある。また精神状況のなかで、昼夜逆転の状況になりそうな画場合は、生活リズムが出来るように声かけしている。
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	今日どの洋服を選ぶかは、本人に決めて頂いている。選択に迷うようであれば、2着の中から選ぶなどその方の状況に合わせて行っている。また装飾品についても同様である。食べこぼしや汚れに関しては洗濯を進めているがこだわりの強い方に関しに関わりに苦慮する場面もある。
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一週間分の献立をたてるようにしているが、入所者懇談会での希望を入れたり、利用者と一緒に献立をたてるようにしている。買い物も一緒に行き、旬のものなど選んでいただく。食事作りに関しても、刻んだりむいたり出来る事は積極的に行って頂く様にしている。後片付けには役割が出来ている。一人一人の嗜好に違いがあり毎日が全員満足するためには課題がある。また味付けに関するトラブル回避に配慮している。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎日の献立に関しては、栄養士が点検している。食事形態に関しても、本人の体調などにより対応している。水分に関しては、ゼリーを作ったり果物で対応したり、またいくつかの飲み物から選んで頂けるように準備している。入所者の嗜好に関しては把握できている。提供場所に関しても、自由に行っている。いつでもお茶が飲めるようにポットのお湯の補充にはこまめに行い安全も意識して対応している。偏食の方に関しても食事量の確認は行なっている。
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、洗面所にて口腔ケアを行っている。本人の状況により介助しガーゼやスポンジで対応するように努めている。口腔内のトラブルが食欲不振の一番の原因となる為に、週に一度歯科医の口腔内点検を行ってもらっている。今後の課題としては、毎食後の口腔ケアが出来ていない方も居るために取り組む必要がある。

自己評価	外部評価	項目	自己評価
			実施状況
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄委員を中心に、排泄チェック表を使用し、本人の排泄パターンを把握している。自尊心を傷つけないように声かけは他の方に気づかれないように行っている。尿意の表現の出来ない方に関しては、排泄アセスメントを実施し本人のしぐさや表情・時間などの情報から排尿パターンを探っている。身体レベルの低下に伴い、排泄の失敗が多くなってきている方へ、本人の性格を考えながらの関わりが課題。
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄委員と食委員との共同で学習会を開催したり、話し合いを頻快に持っている。 排便コントロールに関しては、食物繊維を多く使った献立や効果的な運動など、職員も勉強会を開き「自然な排便」をモットーに取り組んでいる。排便に課題のある方に関しては、取り組んでいるが自立している方の把握が難しい課題である。
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	自宅にいらしたときの、習慣を大切にしながら行っている。毎日本人が入りたい時に対応できるようにしている。時には一日に2回はいられる方もいる反面入浴が嫌いな方へのアプローチに苦慮している部分もある。夏場は汗をかいた時や散歩から帰られた時などに入浴されることもある。入浴で一番大切にしていることは「会話」でより良い満足をしていただけるように心がけている。
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人の生活リズムのなかで食後のひと休みには自室に行かれる方も、ソファでウトウトされる方もおりその方の一番心地よいところで過ごされています。いつでも気兼ねなく休める、環境設定にも気遣っています。就寝・起床は自由な時間で行なっていますが、ハード面で居室の明るさや「声がうるさい」等の訴えにどのように対応していくかが課題である。
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の内容に関しては、各個人の情報が職員の確認出来る場所に設置してあり、薬担当の職員を配置し誤薬がない様にシステム作りを行っている。内服の介助に関しても確実に内服が出来るようにルール作りを行っている。往診時薬の説明は必ず本人と一緒に聞くようにしている。入所者に薬の説明を求められた時には説明書をしっかり読み対応している。
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	手づくりおやつやレクの企画書には一人一人の利用者がどの役割が出来て何を行うことが出来るか明記し、どの職員が対応しても必ずその方の出来る事を出来る場所で發揮して頂けるように行っている。また活動内容を多くして一人一人の得意とするところを皆で称えるようにしている。また男性の方への調理などの協力をヘル事が出来た。一人一人の個人の力に関しては、職員のアセスメント力を高めている。
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	一人一人の希望に添えるように、外出は個別に行っている事が多い。花見や初もうでなどは皆で一緒に出かけるが、馴染みの食堂への食事は家族と職員と行く。コンサートや映画など個別に対応している。また誕生月にも個人が行きたいところに家族と職員と外出したり、個別対応を行っている。訴え時の外出にも対応している。ボランティアの要請も行なっている。

自己評価	外部評価	項目	自己評価
			実施状況
50		<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>本人の能力により自分のお財布にお金を持っている方もいるが、事務に預けている方もいる。その場合は自分でいくら使うからおろしに行くと思表示され職員が付いて行き対応している。また喫茶店にコーヒーを飲みに行く時は自分で支払われたり、買い物の時には状況に応じて支払う行為を行うこともある。金銭の所持が難しくなってきた方が多くなっている。このかたがたに関する支援が難しくなってきた。</p>
51		<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている</p>	<p>毎年の年賀状など季節のお便りは出している。また自分で作った作品や状況など毎月の請求書とともにお知らせしたりしている。電話に関しても、自分で携帯電話を持っている方もいる。電話は掛けたい時に職員に行っかけている。毎月一言箋でご家族へ状況を伝えている。</p>
52	19	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>今まで南側が畳の部屋になっており、あまり活用できていなかったが、改修し履きだしのフローリングにして開放感のある今となった。ソファでまどろむ姿も多くなっている。また温度・湿度計を設置し管理している。また季節ごとに庭に咲いている花を利用者と一緒に摘んで飾ったり、家族が持ってきて下さった花などを飾っている。</p>
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>食堂の席は、自然に決まっているような状況ではあるが、ソファやいすなどは、気のあった方々が自然に集まれる環境となっている。また南側の日当たりのよい玄関前には、ベンチやテーブルを置き日向ぼっこの出来る空間となっている。入居者の現在の人間関係を観察し、トラブルが起きないように未然に防げるように職員の動きを考慮している。</p>
54	20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>寝具やタンスなど自分の使い慣れたものを持って来られている方や仏壇を持って来られ毎朝ご先祖の供養をされている方もいる。写真など家族がお待ちいただいている方は、職員と本人とで飾り付けを行ったりしている。毎日の掃除や片付けは入居者と一緒に行い、どこに何があるのかが自分でも分かるように一緒に整理整頓を行っている。</p>
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>毎日の洗濯や洗濯干しなど職員と一緒にしている。状況の変化により上手に干せなかったり、濡れていても取り込まれることもあるが、職員の関わり方の検討や業務時間の変更などで対応している。また部屋の認識が出来なかったりする場合に、自分で作った暖簾を掛けるなどして意識をして頂くこともあった。職員教育として、5S活動に取り組んだりKYTの学習会やヒヤリハットの重要性などの学習会を行っている。</p>

V アウトカム項目		
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○ 1, ほぼ全ての利用者の 2, 利用者の2/3くらいの 3, 利用者の1/3くらいの 4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○ 1, 毎日ある 2, 数日に1回程度ある 3, たまにある 4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：36, 37)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○ 1, ほぼ全ての家族と 2, 家族の2/3くらいと 3, 家族の1/3くらいと 4, ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○ 1, ほぼ毎日のように 2, 数日に1回程度ある 3, たまに 4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○ 1, 大いに増えている 2, 少しずつ増えている 3, あまり増えていない 4, 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○ 1, ほぼ全ての職員が 2, 職員の2/3くらいが 3, 職員の1/3くらいが 4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○ 1, ほぼ全ての家族等が 2, 家族等の2/3くらいが 3, 家族等の1/3くらいが 4, ほとんどいない